

HIMAWARI ひまわり

NO.233

年頭あいさつ

プライバシーマーク(Pマーク)の理解を深めよう!

CS便り

新春放談
観光立国推進で本格化する
インバウンド市場
旅行業は着地型の観点へ



新春放談



年賀式



新春初売り(高崎支店オープン)



福旅抽選会

knt!
近畿日本ツーリスト

カタチにします。とぎめぎ・キラメキ・おもてなし

観光立国推進で本格化する インバウンド市場 旅行業は着地型の観点へ

昨年12月、参議院本会議で観光立国推進基本法が成立し、年明けから国土交通省が観光立国推進基本計画の原案づくりに着手するなど、観光立国に向けた動きが本格化してきました。国土交通大臣就任直後から積極的に中国との交流を働きかけている冬柴鐵三大臣を交え、中国を中心としたインバウンド市場の展望と、私たちがすべき民間活力について論議を交わしました。

●市場の得意先は中国

宮本 観光産業は、成熟した社会の中で非常に成長性が期待できるうえ、人が人にサービスをする究極の産業とも言われています。折しも「ビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）」が展開されている今、観光産業が活発になると、外国との交流がますます盛んになります。大臣も先ごろ、中国に行かれたと伺いましたが。

冬柴 中国とは縁が深く、公明党の幹事長を9年ほど務めました。その間、ほとんど毎年のように訪中しておりました。

9月26日に安倍内閣総理大臣から観光立国担当大臣に任命され、訪日観光客を2010年までに1000万人にするというVJCの目標をぜひ実現してほしいと言われました。2005年に日本を訪れた外国人旅行者は673万人でしたから、あと5割弱ほど増やさなければなりません。これは大変な作業です。

それでは実現は難しいかと言えば、そうではありません。例えば、中国には13億の人々がいます。2005年に中国を訪れた日本人旅行者は339万人にのぼっていますが、中国からはわずか65万人しか来ていません。つまり、これをイーブンにすれば、あと200数十万人増えます。

時に楊元元民用航空局長とお会いし、こうした提案もしてきました。

●北京オリンピック、上海万博に向け、相互交流を拡大

宮本 利便性の高い3都市の空港をアジアのコミュニター空港のように築いていこうということですね。戦略としてはとてもおもしろい。

さて、今年は日中国交正常化35周年ですが、30周年のときにもKNTさんではたくさんのお客さまを送客された実績があります。今年の手応えはいかがですか。

太田 日中国交正常化30周年の際には旅行業界を挙げて訪中旅行に取り組み、日本から1万3000人ほどが行きました。KNTとしては4300人を送客しました。

冬柴 私も行きました。(笑)

太田 一昨年は反日デモの影響で双方の行き来は減少傾向になりましたが、ここ数年、中国からのインバウンドは非常に好調に推移しています。今年は両国合わせて500万人台の交流が達成するのではないのでしょうか。

冬柴 ぜひとも達成させなければなりません。

昨年12月に北京で中国国家旅游局の邵琪偉局長と会談した際、日中国交正常化



新春放談にふさわしいインバウンドに向けた展望を出席の皆さんからお聞きできました。

左より太田社長、冬柴国土交通大臣、宮本氏(於:国土交通大臣室)

冬柴鐵三(ふゆしばてつそう)
国土交通大臣/観光立国担当。



冬柴 鐵三 氏

1936年、中国(旧奉天)生まれ。70歳。関西大学二部法学部卒。前職は弁護士。公明党に所属。1986年に旧兵庫2区(現兵庫8区)より衆議院議員に初当選。旧公明党・新進党・公明党を経て、1998年、公明党の幹事長に就任。現在は党常任顧問を務める。2006年9月より現職。

宮本倫明(みやもとろんめい)
文化人/総合プロデューサー。



宮本 倫明 氏

1960年、山口県生まれ。46歳。大阪大学工学部卒。1985年リクルート遊社後、各種イベントをプロデュースする北本正孟氏代表の(株)カントリーに弟子入りし、主に地方自治体のイベント企画・プロデュースについて師事。2005年、弊社創立50周年事業「地域プランディング大賞」・「地域プランディングフォーラム2005」の企画プロデュースを手がける。

台湾や韓国はアウトバウンドとインバウンドの構成がほとんどイーブンなのです。日中間の何らかの障害を取り除くことにより、あるいは積極的にこちらから働きかけることによって、中国からの旅行者を増やすことは不可能な話ではありません。そこで、やはり市場の得意先は中国と思いい、大臣就任後の最初の訪問国を中国に決めました。

現地では中国国家旅游局の邵琪偉局長にお会いしましたし、仕事柄、唐家璇國務委員、吳儀副首相、曾慶紅國家副主席ら多くの知り合いがいる中、唐家璇さんに会うことができ、訪日旅行者の拡大を促しました。

また昨年11月には、アジア太平洋経済協力(APEC)首脳会議に出席するためベトナムを訪れていた安倍総理が中国の胡錦濤主席と会談し、日中国交正常化35周年の今年を日中文化・スポーツ交流年にするよう合意しました。今後は日中間の往復の交流人口を500万人の万台に乗せるプランを実務的にやっていく予定です。

日中両国が頻りに行き交うためにはアクセスの改善が欠かせません。日本と韓国の間には、都心の羽田と金浦を結ぶシャトル便が1日8便就航し、往復の交流人口は400万人を超えています。同様に羽田と上海の虹橋空港を結ぶ便があればどうでしょう。上海には浦東空港があります。中心街から30数kmあります。ここより市内から12kmしかない虹橋空港と羽田、それにソウルの金浦を結ぶことで三カ国の交流は一層拡大します。訪中



冬柴大臣には太田社長のインバウンド市場に対するビジョンを熱心に聞いていただきました。

35周年事業の一環として、今年秋に日本から直行便が就航している19都市にそれぞれ1000人、合計1万9000人規模の訪中団派遣を提案しました。また、修学旅行も月5000人ずつ交流しましょうと明言してきました。

宮本 夢は思わないと叶わないということですね。

冬柴 邵琪偉局長は席上、日本の桜を追いかけけるツアーを造成したいと言ってくれました。沖縄から北海道まで、桜の開花時期は1カ月から2カ月近くずれています。それを追いかける商品を作って売りたいというのです。おもしろいでしょう？

宮本 おもしろいですね。

太田 一昨年、KNTの独資法人を北京に設立するお願いや、訪日旅行の販促活動に何度も北京に行きましたが、邵琪偉局長と3、4度お会いしています。日本にとっても詳しく、観光に対する造詣も深いと感じました。



冬柴 改善したいものはほかにもいろいろあります。例えば、訪日団体観光ビザの規制。中国人による訪日旅行は団体でなければならず、その人数は5〜40人ですが、3人は団体にならないのか。また、添乗員なしのカテゴリーを作れないものか

——。先ほどの話と併せ、こうした規制の排除や改正が行われれば、訪日旅行者はもっと伸びます。

宮本 中国の富裕層は日本のそれよりもはるかに人数は多いと言われていますから、魅力的な市場ですね。

冬柴 海外旅行が成熟した台湾では同地を訪れる日本人旅行者より、日本に来る旅行者のほうが多い。台湾の方たちは団体旅行を敬遠する傾向にあり、旅行は個人や夫婦で参加。また、行動も自分で車を運転するなどして自由を好みます。警察庁は、交通の安全と円滑を図る上で台湾の運転免許制度が我が国と同等の水準にあると認められるということで、台湾側との協議がまれば、台湾の運転免許証での運転を認める方向で検討しており、実現すれば、台湾からも新たな市場の掘り起しが期待できるでしょう。

●民間活力で地域活性化
KNTも着地型旅行を推進

宮本 大臣には制度的な部分を改正して

宮本 ご両人とも中国とは本当に良いご縁があるようですので、ぜひ今年は日中国交正常化35周年を記念してまずまず交流が盛んになり、お互いが経済的な発展に寄与できればよいですね。

冬柴 会談の席では日中韓を結ぶクルージングツアーを実現させようという話も出ました。ぜひKNTさんにもがんばっていただきたい。

太田 これから需要が増えるでしょうね。また、羽田、金浦、そして上海の虹橋を結ぶシャトル便が実現すると、交流は一気に拡大するでしょう。上海万博も間近ですから、タイミング的にも絶好だと思っています。

冬柴 ええ。2008年には北京オリンピック、2010年には上海万博が開催されます。その助走としても都心同士を結ぶ近距離シャトル便は絶対必要だという認識で一致しました。

●規制緩和で訪日需要を喚起

太田 訪日旅行に対する中国の旅行社の熱意はすごいものがあります。一昨年、中国の旅行社が100社ほど集った席で、訪日旅行市場に関する講演をしてきまし

ただき、訪日旅行市場の垣根を一層低くしていただけるようご尽力をお願いしたいと思いますが、民間レベルでもインバウンドを活性化させるためにするべきことがあるのではないのでしょうか。KNTでは地域の観光をより良くしていくための「観光プロデューサー制度」が社内にあると聞いています。また、国土交通省でも地域活性化戦略の中で「観光地域プロデューサー」という制度をご検討されていると聞いています。地域における民間の役割についてお聞かせください。

冬柴 国はこれまで全国総合開発に取り組み、国土の均衡ある発展の実現に向けて取り組んできましたが、今日の日本の姿を見ると、中央集権型で何でも都心に集まってしまう、過疎に陥った地方では、歴史、伝統、すばらしい自然などがあるのに、それを活かす人材や後継者がいなくなっています。こうした事情を鑑み、中央で旗を振るよりも、国と地方が協働でビジョンをつくる広域地方計画が進行しています。例えば、近畿地方にも北海道にもすばらしい世界遺産がいくつもありま。それらを観光資源としてどう活用していくかを各地方で、また民間レベルで考えていただきたい。ぜひ太田さんにも旗を掲げてもらいたいと思います。

太田 ここ2、3年、特に強く感じるのは、地元の支店がインバウンドに携わる着地型旅行の推進が求められているという点です。これまでの旅行業は、どちらか

だが、参加された旅行社の皆さまが日本への旅行に対して非常に高い関心を持っていることを肌で感じました。

冬柴 瀋陽の総領事館や大連の出張駐在官事務所では観光ビザを発給していません。少なくともこうした大都市ではビザを発給できるように取り組みたいですね。

訪日旅行といえば、例えばKNTさんが中国人旅行者を直接日本へ送客することはできないのですか？

太田 今はできません。

冬柴 その点も改めたいですね。

太田 北京の現地法人には、日本から訪れたお客さまの旅行の品質管理という大きな役割がありますが、中国からのお客さまをいつの日か取り扱えるだろうという先行投資の意味合いもあります。見通しはまだ立っておりません。

冬柴 一生懸命取り組みますから、もうしばらくお待ちください。

太田 早期に実現できるよう、ぜひともお願いいたします。(笑)

たとえばアウトバウンドを中心に国内旅行にも取り組んできたという形でしたが、いま私たちに求められているのは、国内旅行におけるインバウンドの推進だと実感しています。

KNTでは3年ほど前から「観光地域プロデューサー」という制度を設けました。国土交通省のそれは旅行業のOB等を活用するというお考えのようですが、私どもでは現役の社員をいくつかの自治体に派遣して、その地域の地域興しに取り組みたいです。例えば鳥羽では離島に修学旅行を誘致したり、ほかの地域では地産地消を促進することに成功しています。ただ、今は各自治体が個別に取り組んでいる状況。それが今のお話のように、プロダクトごとに広域に取り組めば、着地型旅行の推進は非常に力強いものになると思います。



観光立国推進のため、地域ブランディング事業に力を入られる宮本氏ご自身の経験からいろいろご意見が出ました。



長くかわりがあり造語の深い中国に対して観光面から貴重なご意見がありました。

冬柴 広域地方計画では、外国人旅行者を受け入れる空港や港湾を拠点にして、どのように観光のネットワークを築くかを広域で考えてもらいたいのです。国が考えるには限界があります。

太田 よく国土交通省の文書に「やる気のある地域に」と書いてありますが、あれはどういう意味ですか？

冬柴 元気でやる気のある地域を応援しようというメッセージです。国ではなく、民間主導で国土づくりをもう一度やり直そうとする動きがある中、観光が占める割合や意義は非常に大きいと思います。

宮本 2004年に愛媛県の加戸守行知事から「愛媛の町並博」というイベントをするので、そのプロデュースをしてほしいと依頼を受けたことがあります。町のおばちゃんや漁師の方と一緒に、旅行者など他の地域から来た人を楽しませるプログラムを100種類ほど作りました。こうした手法が変わっていったのでしょう。後に「イベント大賞」などいろいろな賞をいただきました。

「私は観光なんて関係ないわ」などと思っていた人が、自分が施すサービスが人を楽しませ、さらにその対価としてお金まで受け取れることに喜びを感じてい

たことが印象的でした。観光の意識が住民一人ひとりに根付き、それが産業として確立していく。漁業も農業も含め、いろいろな産業が観光と結びついていく。こうした町の魅力づくりは海外にもアピールできるのではないのでしょうか。

冬柴 それはおもしろい。相当成熟した、先端を行った事例ですよ。松山といえば、坊ちゃん湯や坊ちゃん電車、食べ物も美味しい。それ以上に今のお話は本物の日本人を知ってもらえる企画ですね。

宮本 中国人は日本人の生活文化にも興味をもっています。そこをアピールしていく努力が必要だと思います。

●全住民が携わる真の観光

太田 地域興し、特に観光客誘致に関しては、観光業に携わる人が担うものという誤解があると思います。農林水産に携わる人たちや地元の先生・郷土史家など、そういう人たちが携わってこそ、本当に地域に根ざした観光が育成される。まさに愛媛はそれを具体化したケースですよ。

宮本 着地型旅行の活性化に向けて、国土交通省は第三種旅行業者が募集型企画旅行今年には日中国交正常化35周年を記念したコンサートを検討中で、日本のアーティストにお越しいただき、西安で一大コンサートを行う計画を立てています。これまでのコンサートと同様に、日本からのお客様と現地の方と一緒に見られる形にしたいと思っております。

冬柴 そういう民間の活力がぜひとも必要です。私たちは皆様のお手伝いをするだけで、ほかに何もできません。KNTさんのように双方の交流を促進する企画や実行力が民間に求められています。観光に携わる方はもちろん、観光客を受け入れる地域住民の皆さんにもぜひご協力いただき、真の観光立国をいっしょに目指しましょう。

行を実施できるよう検討するなど活発に行動されています。こうした活動が、住民が観光に携わる真の観光立国につながっていくのではないのでしょうか。

冬柴 天才的なスキーヤーがニセコのパウダースノーはすごいと母国のオーストラリアに喧伝したところ、わずか2万人の人口の地域に延べ7万3000人のオーストラリア人が押し寄せました。冬だけでなく、夏には川下りなどができることも広め、海外で有名になりました。観光素材はどこにあるのかわかりません。それを発掘し、広めたニセコの努力はすごいと思います。

太田 KNTの創立50周年を記念して一昨年「地域ブランディング支援事業」の一環として「地域ブランディング大賞」の選考と授賞式を行いました。「美しい日本の歩きたくなるみち」500選（日本ウオーキング協会主管、国土交通省後援）に選ばれた地域に打診したところ、183カ所からご応募いただきました。それを審査し、商品化する事業に一昨年から取り組んでおりますが、こうした事業に対する各自治体の方たちの関心の高さを改めて認識しました。

宮本 今年は日中国交正常化35周年。これを機に、相互交流500万人を目指したいですね。また、来年はいよいよ北京オリンピック。2010年には上海で万博もあります。今以上にアジアとの交流を

盛んにし、日本の良いところを適正な価値でサービスできるように、民間もがんばらなければなりませんね。

今年には日中国交正常化35周年を記念したコンサートを検討中で、日本のアーティストにお越しいただき、西安で一大コンサートを行う計画を立てています。これまでのコンサートと同様に、日本からのお客様と現地の方と一緒に見られる形にしたいと思っております。

冬柴 料金に関してはいろいろなグレードが必要でしょう。安いところも必要でしょう。また、泊食分離型の宿泊があってもよいでしょう。

太田 中国からの観光性の高い訪日旅行は、まだ価格志向が非常に強いですね。ただ、日本も昔はそうでした。中国の海外旅行の歴史は、短い期間に日本の歴史を追うと思います。訪日旅行は品質の良いものが求められ、それがリピートして1000万人につながるというプロセスをたどることが理想だと思います。

冬柴 そのとおりです。

太田 私どもKNTでは、海外の世界遺産を会場にしたイベントを行っています。日本・カンボジア国交樹立50周年を記念してアンコールワットで行った「アンコールワットライトアップ・コンサート」（2003年11月）、日・EU市民交流年、日伊文化協定締結50周年を記念した「日本・イタリア交流の翼2005 アッシジサン・フランチェスコ大聖堂。邂逅」一千年のめぐり合い（2005年5月）に続き、昨年8月には日豪友好協力基本条約署名30周年を記念し、「大地のまつり・The Earth Festival」をオーストラリアのエアーズロックで開催しました。



冬柴国土交通大臣からはKNTに対して多大なエールを贈られました。